※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

【全体共有 2】

（総合 F）　模造紙はテーブルの上にそのままで結構です。先ほどの発表と同じ順番、A、B、C で行きたいと思いますので、皆さん、A 班の周りに集まってください。

――　貼ってもらったほうが早いのですが？

（総合 F）　では、貼りたいとこのチームの方がおっしゃりましたので。

たくさん質問を寄せていただいたのですけれども、その中から優先順位の高いものを 2 つか 3 つ、選んでいただいているわけです。その質問とその答えをしっかりと話していただくのですが、ここでは、質問したい方はその場で質問を受け付けますので、考えていただければありがたいと思います。

すみませんが、ここは 1 班 3 分しかないんです。よろしくお願いします。

――　A 班です。質問としては 3 つ選びました。できるだけくくるようにして、できるだけ多く答えられるようにはしたのですけど。1 つ目は、正解がない問題というのはそもそもどんな意味なのか。どんなおとしどころかという話です。2 つ目は、説明者についての質問です。誰が説明するのかとか、説明の場をどのように設けるのかとか、結構スペシフィックな質問が来たのですが、どちらかというと、どんな説明者像を意識しているのかというのに対する答えを作ろうということになりました。最後は、教育するにも問題意識をどう持たせるのかという質問です。

1 つ目、正解がない場合のおとしどころということで、いろいろ意見が出たのですが、時間がないので、まとめの文章だけを読みます。元々正解はないということで、文言としては合意形成というか、いわゆる民主主義的な考え方ですけれども、答えというよりは、皆が納得する認識。あるいは、合意形成に至らないまでも、問題意識を共有していくいうこと。最終的にはそれが合意形成にもつながっていくという形で、皆が問題意識を持っていくことが大事ではないかということになります。

2 番目です。どんな人が説明するのか、あとは、そういう人がどんな場で説明をすればいいのかということです。どんな人かというところに関しては、まず、利害関係がないということが大事だろうと。もうひとつは、信頼のおける人、その「信頼のおける」の中味はいろいろあるかとは思うのですが、ここでは、技術を理解している知識人という形で、信頼を担保している人。なおかつ、一般受けがして、中立的な立場に見えるような人が、1 人じゃなくて、何人もいて、いろいろな形で説明できるのがいいだろうと。そして、そうい

う人が、いろいろな立場の人が集まるところでちゃんと議論を進めていく、というような形がいいのではないか。まあ、そうはいいながらも、全くの中立というのは実は難しいだろうなという話もありました。

3 つ目です。「教育するのに問題意識をどう持たせるか？」という質問だったのですけれども、1 つは、危険性やトラブルみたいな課題、問題も含めて、ちゃんと正直に出す。それを正しく伝えるということ。あとは、そういう情報に触れる機会を増やすこと。例えば繰り返し出すとか、日常的にそういう情報に接する機会を増やしていく。そういう中で、例えば施設の見学も大事でしょうし。課題を説明していく中では、学校教育などを通してディベートみたいな形で意見交換していくのも大事ではないか、とまとめました。（拍手）

（総合 F）　時間ぴったりにまとめていただいたということで拍手がわきましたが、質問があれば、この場でお願いします。

――　合意形成のやり方というのは日本の社会ではすごく難しいと思うのですよね。黒川委員長が例の事故調査委員会で、場の雰囲気、空気でこういうことを決めてしまうのは、日本の社会ではダメなのではないかと言っているわけですね。まあ、このフォーラムは議論をしているので、この場はちょっと別だと思うのですけど。日本の社会は議論、ディベートをする文化がないですよね。そういう文化がないところでの合意形成というのは、一般に、空気を読む、で終わってしまうのではないかなと。そこが一番の問題だと思うのですよね。

――　おっしゃる通りのところはあるとは思うのですが。やはりどうしても阿吽の呼吸の文化みたいなところがあって、そういう点では、声の大きい人が勝つとかそういうことではなくて、場の流れで進んでいく、あるいは答えがないままに行くというのも確かにあるにはあるのですが。

そういう点では、合意形成に至らなくても、こういう共有をしていくことで、全部は解決しなくても、少しずつでも進んでいくと。あるいは、それがちょっと悪い方向に傾く場合もあるとは思うのですが、まあ、それがいわゆる日本的な流れなのかなと。ディベートをやって、本当に相手をコテンパンにして物事を決めていくというのは、どこまで行っても日本には合わない方式なのかな、という気は確かにします。

ということで、正解なしで合意形成というのがおとしどころかなと。

（総合 F）　正解のない合意形成、なかなか難しいですね。

A 班の皆さん、もう少しコメントがある方はいらっしゃいますか？

――　やはりこういう問題は時間はかかりますよね。だから、繰り返して議論していくし

かないと思いますけれども。

（総合 F）　はい、分かりました。他に質問はよろしいですか？　どうもありがとうございました。（拍手）

それでは、B 班のほうに行ってください。ボードのほうに模造紙を貼っておられるので、そちらを見てください。よろしくお願いします。

――　B 班です。B 班では 3 つの質問に答えました。1 つ目の代表質問としては、「教育のやり方は？」とか。あとは、原子力技術を専門的にあまりにやると無関心になるのは納得できるけど、その対策は？　という質問。あとは、「原子力を身近な問題としてとらえるにはどうしたら良いですか」というような、主に教育に関する質問と捉えました。

次は、「順調とはずっと安全と信じられること？」「信じられるためにはどうしたら？」「政府への信頼が必要なら、どういうアプローチがいいと思いますか」という、主に信頼とか、安全に関する質問。

3 つ目が、難しいなと思ったのですけど。「原子力の複雑さをどう整理するといい？」、いろいろな方面があるということを言っていたので、それに対するご質問だと思います。「後から文句を言いたくないが、どう意見を言ったらいいのかわかりません。どうしたらいいですか」。後は、『「ムラ」を変えるには関心が必要ではないのか』ということで、複雑さをどう整理していくかというような話です。

うちの班は、やりやすそうなところから始めたということで、それが教育についてなのですけど、まず、やはり学校教育が重要かなということ。

実はいい例がありまして。環境教育基本法がかなり浸透していて、例えば、草の根的に、民間の方も教えていたり。リサイクル法も教科書に載っていて、今どきの小学生は、ちゃんとごみも分別できるし、そういったことを考えて実際に行動もできるようになっていると。先生方に対しても、拠点校というのが作られて、そういうところからだんだん広がっていって、今はそういうことが浸透しているという例が挙げられました。

だから、原子力に対してもそういうことができれば。特に放射線に関して、どういう害なのか知らない人が多いので、そういったことが草の根的にだんだんとできるような教育ができればいいのでは、ということです。

一方で、成人の希望者に、希望者というのがミソなのですけど、興味を持ってくださる方に対しては、ちゃんと客観的な現象とか、データとか、そういうことを教育していくのがいいのではないかという意見が出ました。

あとは、学校の教育に関しては、先生の考え方の偏りとか、内容ということ。あとは、海外でどのように教育しているのだろうね、という疑問も出て、そういったことを参照するのも大事かなということになりました。

②は信頼の話ですが、福島の事故のみそぎと、それを踏まえての対策。過信の禁止とか、

重大事故に対する議論も深めていって、安全の議論をするとか。あとは、やはり海外のことをレファレンスするといった意見が出ました。

3番目の多様性、複雑さの整理については、これも他国と制度等の比較を客観的にしてみるとか。あとは、信頼がまず前提になるのですけれども、専門家による広報的な説明、公平で、しかも総合的な説明が必要かなということでした。

すみません、時間切れになりましたが、以上です。（拍手）

（総合F）　ありがとうございます。B班に質問を出された方で、何か追加でコメントがある方はいらっしゃいますか？　よろしいですか。

このグループの方もよろしいですか？　ありがとうございます。B班は教育に関する質問が来たということで、どういうふうに皆で理解、理解というのか、情報をきちんと得ていくのか、いろいろ話し合っていただきました。ありがとうございます。（拍手）

皆さんでCのほうに行きたいと思います。

――　よろしくお願いします。C班は、どうして無関心になれるのかという質問と、教育に関する質問について答えました。

この質問を答えるにあたって、どうしてこういう「無関心」という言葉に至ったのかについて、説明をお願いします。

――　すみません、補足させていただきます。「どうして無関心でいられるの？」という、ズバリ聞いている質問が来たのですけれども、これはたぶん、私たちの班は（無関心の）肯定が多かったので、そういう質問が来たのではないかと私は思いました。

それに関しては、無関心が良いとは誰も答えていないのですけれども、人それぞれだ、いろいろ考え方があるだろう、と私は思って、そういう意見を出しました。

そこから答えを皆で出していったのですが。そういうことなのですけれども、よろしいでしょうか。たぶん、あまりにも肯定が多かったので、こういう質問が本当に多かったのですね。ただ、無関心が良いとは誰も言っていないというところを分かっていただきたいと思います。では、続きはよろしくお願いします。

――　「どうして無関心でいられるの？」については、興味がなければ関心が持てないということと、あとは、関心がないわけではないのですが、自分の一番の関心ごとにはならないということが答えになりました。

あとは、関心の有無と賛成・反対を分けるべきであるという意見もありましたね。関心を持つ持たないは、原子力の賛成・反対というわけではないということです。それから、無関心が良いと言っているわけではないということ。こういう答えで大丈夫ですかね。

続いて、教育についてです。教育というのは関心を持たせる教育なのか、それとも問題

解決の教育なのかという質問でしたが、私たちは、関心を持たせる教育が一番ではないかという答えでした。どのように関心を持たせていくのかということで、初等教育で日本のエネルギーを教育し、その中で原子力を教えていく。あとは、リスクやメリット等をオープンにしていく。リスクについても子供にも教えていくことが重要である。あとは、原子力に限らず、リスク教育を広くするべき。あとは、初等教育で行うという意味で、小学生に身近なキャラクターであるしまじろうとか、そういうキャラクターを使えば、皆前に出て関心を持っていくのではないかということでまとまりました。ありがとうございました。（拍手）

（総合 F）　ありがとうございます。どうして無関心でいられるのかというところに質問が集中したということですが、どなたか追加質問はありますか？

――　「無関心で良いと言っているのではない」、「無関心が良いとは言っていない」という付箋がピンクも水色もありますが、1 枚目を見てみたら、肯定否定という中で、肯定があまりにもあったから、だから今おっしゃったみたいに、そう捉えたのだと思います。

確かにそうだと思うのですけど、なぜあれだけだーっと並んだのですか？　それについての説明がない。無関心がいけないと言っているのは 1 人だけでしたという話をここで伺ったのですが。それ以外の方は、個人的な話だからとか、市民としてそこまで追求しようと思わないとか、それらを見て、質問しているのです。まあ、キーワードなので、話の内容については分からないのですけれども。

だから、いや、無関心というのは言っていませんよ、そんなことを一切書いていませんよという答えでは、答えではないのですよ。

（総合 F）　はい。という質問がありました。C 班の方、どうぞ。

――　いや、私はただ、最初に説明したように、この班ではそういう意見が多かったという事実を、おそらく他の班とは違うだろうと思ったのですけれども、そのことを事実として紹介したので。で、このフォーラムはそれを議論することが目的ですから、私はこういう事実として、そのまま見ていただきたいということでお話しました。

――　今の答えに対してなんですが。

（総合 F）　いろいろなご意見があってもちろんいいのです。

今のご質問は、なぜ無関心でもいいという答えを書いた方が多いのかというご質問だったのですが、C 班のほうでは、別にそういう意味ではないですよということでした。

――　いいですか。言葉のニュアンスがだいぶ違ってきているところがあって。無関心で「本当に」ダメなのか？　と、かなり念を押している質問なのですよね。それに対して肯定が多かったのは、仕方ないよね、という意見なのですよ。だから、絶対無関心でいいですよ、ということではなくて、残念ながら無関心が多いよねという、そういう肯定の意見ということです。

（総合 F）　分かりました。ありがとうございます。今のでよろしいでしょうか？

――　キーワードを全部読んでみたのですよ。あれって思ったので。

（総合 F）　ありがとうございます。今回、3 つの班で話していただいたのですが、今いろいろ質問もあったように、「関心」という言葉をどういう意味に捉えるかで、話の進め方が多様な形になっていました。例えば、C 班の皆さんと A 班の皆さんで、「関心」という言葉の捉え方が微妙に違ってくるというのも、皆さん感じていただけたかなと思います。

ただし、こういうことを皆で話し合う場が今まであまりにもなかったということで、話し合っていくということの大事さを、私も非常に感じ取っているところです。本当にありがとうございます。

一方で B 班は、原子力の信頼性とか、エネルギーとか、そういうお話が出てきたということで、同じようにスタートしても、まだまだ議論をやらなければいけないことがいっぱい見えてくると。

これからも、このフォーラムをきちんと続けていきたいと思いますので、今日はどんなことをお感じになったのか、あとでしっかりとアンケートに書いていただいて、その後、最後の振り返りの時間を今日もとりますので、お一人 30 秒ずつ聞かせていただければありがたいなと思っています。よろしいですか？

それでは、本当にグループワーク、お疲れ様でした。ありがとうございました。（拍手）